

■障害者ケアマネジメントとは、リハビリテーション・マインドの発揮！

障害者ケアマネジメントの理念について、エンパワメントとそれを支える interdisciplinary teamwork に焦点を当てて解説している。真に有効なケアマネジメントの実現のためには、当事者が自ら積極的な主体者として参加し、問題を解決する力を育てるエンパワメントが必須である。一方、専門職には対象者に対する自助エンパワメントに加え、コミュニティに対する共助エンパワメント、社会システムに対する公助エンパワメントを含む多次元にわたるエンパワメント技術が求められている。（安梅勅江氏，1357 頁）

■身体障害者ケアマネジメントの現状と問題点

市町村障害者生活支援事業の実態調査を基に、地域システムづくりとケアマネジメント従事者の育成に関する問題点を解説している。地域システムづくりでは、①サービス供給体制の確立、②権利擁護の仕組みの確立、③自己決定を尊重する体制の確立などが課題であり、ケアマネジメント従事者の育成では、①研修事業への障害当事者の参加の促進、②ケアマネジメント従事者を支援する体制の確立などが課題である。（鳥海直美氏ら，1365 頁）

■知的障害者の現状と問題点

知的障害者のケアマネジメントの現状は、ケアそのものが分かっていないという認識から出発しなければならない状況にある。介護保険におけるケアマネジメントのように、介護度に対応した公的サービスの組み合わせだけでなく、ニーズの積み上げによるフォーマル・インフォーマルなサービスのあり方検討や不足している社会資源の開発が求められている。入所施設指向が顕著である実態を踏まえ、目標とすべき理念と現状の格差をいかに埋めていくか、問題は山積している。（福岡 寿氏，1371 頁）

■精神障害者の現状と問題点

精神障害者に対するサービスの現状は、未だ他の障害者施策との格差が大きいこと、利用者とその家族あるいは専門家までもが、なおも誤解を留めていることなどが背景状況として特徴的である。ケアマネジメントはケースマネジメントとして 1980 年代後半に導入されたが、全体の意味がつかめず形式的な実施に終わったり、実施場所も公的施設に限定されがちで未だ多くの問題がある。今後は、地域生活支援センターを拠点に、徐々に関係職員を増やして実効あるものにしていくことが現実的である。（野中 猛氏，1377 頁）

■今後の展望

平成 15 年 4 月から本格実施される「支援費制度」の趣旨と仕組みについて解説、そのうえで支援費制度の下での障害者ケアマネジメントの現状と展望について具体的に述べている。今後の実施体制について「障害者ケアマネジメント体制支援事業」のイメージ図を示して解説、ケアマネジメント従事者の育成については、3 障害共通の研修体制を計画しており、とりあえずは、障害特性に対する考慮も大切であるが、それ以上に相談支援として 3 障害に対応できるケアマネジメント従事者の育成を重視する方向性を示唆している。（坂本洋一氏，1383 頁）